



11月号

園長だより

H28.10.27
新渡戸文化子ども園

「あいさつ」と「返事」

先日の運動会では、たくさんのご声援をありがとうございました。雨天での場所変更にもかかわらず無事に終わることが出来ましたのも、保護者様方のおかげです。ありがとうございました。また、本年度よりお父様のボランティアのお力で、会をスムーズに進行することができました。重ねて御礼申し上げます。

オーストラリア在住時、現地の方に日本人について良い面として言われたのは「日本人は、礼儀正しく、勤勉で、正直、清潔、高い道德心があり、子どもたちは本当によくマナーが備わっていますね。」でした。ありがたいことだと、日本人として心から誇りに思いました。確かに、幼いころ両親はもちろん、祖父母からは厳しく「あいさつ」「返事」「履物をそろえる」「お箸の持ち方、上げ下ろし」「食べる時の姿勢」「立つときには、椅子を入れる」等々、様々な事を教えて（しつけて）もらったように思います。

日本に戻り数年がたち、おかしいなことを感じました。オーストラリアで日本人の方と接するときの方が上記のようなことを、もっと気をつけていたように感じ、周りにもそのような方々がたくさんいらっしゃったように思ったのです。マイノリティーとしての団結力だったのでしょうか？お会いする日本人の方々が、「きちんとあいさつ」「きちんと返事」をしていたのです。（時々やりすぎて、特にお辞儀はやりすぎると豪人友達から指摘が入り戸惑いましたが）

「あいさつ」と「はい」の返事ができるとどうしてよいのか？と、子どもの立場に立って考えると、その二つで、人の話を聞く態度ができあがっていくように思います。学校での勉強も、社会に出てからの仕事も、人の話が聞けない人はどうしようもありません。子ども同士の遊びの中で「はい」と返事をしない子はどうなるのでしょうか？それは無視をすることになるので、人間関係が築かれません。「あいさつ」をせずにその日一日を始めたり終えたりすることは、気持ちの良いものではありませんね。これもまた、人間関係が築かれません。

では、どうしたら子どもに「あいさつ」と「はい」のしつけが身につくのでしょうか？

まずは、親が先生が率先してやることです。しつけはできたからと達成感や面白さは何もありませんね。しつけとは習慣です。繰り返し根気よく続けるのです。そして、余裕がある時には褒めるのです。

今日は、疲れているからやらない、では「あれ？今日はやらない。でも、昨日はやってたよね。どうして？」と、子どもは混乱しますね。

ところで、オーストラリアにも挨拶があります。「How's going?」「good」等々。やはり、その言葉を交わしてから仕事に入るかどうかは、一日の仕事にも大きく関わっていました。また、子ども同士で「Hi!」と、言い合うことで遊びが始まっていました。

「あいさつ」と「はい（Hi!）」が大事なものは万国共通なのですね。

